



大津繪ぶし
『雷』かみなり

雷の怠け者、虎の皮の禪で勇み肌、ごろつきの仲間入雷庄九郎と
名を替えて、五人男の惣かしら、色里には入り込み、つれにも借
だらけ、揚句にお袋の臍繰の金盗み、おやちに見切られて勘當さ
れ、風の神の世話に成て、今では住吉で煎餅賣り。



千両みかん

笑福亭 松鶴

三遊亭 しん藏畫

エ、追々と暑さが厳しふなつて参りました。時候に従ひまして眞夏のお咄を一席伺ひます。唯今は誠に世の中が便利になりまして、野菜や果物を冷蔵庫に藏かくふて置きますので、何時でも季節外れの物が喰べられます、又藏かくひ物では味が變ると云ふのでお百姓衆の方でも種々と御研究になりました、促成栽培とか抑制栽培など云ふ作り方が考え出されましたので、季節外れの然も新らしい物がドン／＼市場へ入て來ます、我々の子供の時分に競べると夢の様な氣が致します。

相變らず手前の方は昔の古い儘で申し上げますが、これは別段冷蔵庫にも入れて無かつたので、少々計り微が生えてるかも知れまへん、どふぞ御辛抱の程をお願い申して置きます。

お所は中船場で、大勢の奉公人を遣ふて盛大に商賣をしてゐる御大家で御座りますが、此家の若旦那と云ふのがフトした病ひから臥つきましたが、日一日と重なる計り、たつた一人の息子さんとて御